

巻 頭 言

取締役常務執行役員 菊 地 淳

1952年に創刊された技術論文誌「東洋鋼板」は、途絶えることなく発信を続け、ここに第42巻をお届けする運びになりました。また、日本で最初の民間ぶりきメーカーとして誕生した当社は、今年4月に創立90周年を迎えることができました。そのあいだ、鋼の圧延、表面処理などの基幹技術を鍛え続け、それらをもとに複合材料、アルミ、樹脂フィルムといった新たな分野に進出し、お客様にとって有益な製品、サービスを届けてまいりました。技術開発における先人たちの弛まぬご尽力に深い敬意を表するとともに、本誌を読んでくださるお得意先様並びにお取引先様やグループ各社の皆様に心より感謝申し上げます。

本誌全42巻を眺めてみますと、それぞれの時代背景、時代ごとの課題、技術開発などを感じ取ることができます。創刊前後はまさに戦後日本産業復興の時代であり、また、設備合理化計画により設備増強を図る時期でした。この頃の巻頭言には戦後残された技術資本の発揚の思いや、鉄鋼業界の発展へ向けて力強く歩んでいくとの強い意思が語られています。また、1960年初頭までの本誌では、電気めっき設備、塩ビ鋼板製造設備、連続焼鈍炉、2基連続調質圧延機などが表紙を飾っています。1970年代には2度の石油危機が訪れましたが、2000年にかけてそのコンテンツを見渡しますと、各種めっき鋼板に加え、硬質材料、クラッド材、ポリエステルラミネート鋼板などが、2000年以降ではさらにアルミ磁気ディスク基板、臨床診断用基板などが加わっていき、本42巻へと続いています。

以上のように、様々な技術開発の成果について本誌を通して発信できたことは、皆様の協力のたまものであり、ここに厚く感謝いたします。当社の企業理念にある「技術の可能性を追求することで新たな価値を生み出し、お客様とともに社会の発展に貢献します」との存在意義の具現化に取り組み、時代が大きく変わっていく中、その変化をチャンスととらえ、社会の持続的発展に貢献していきたいと考えています。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。